

新渡戸稲造の武士道の心を学ぼう 寺子屋稲生塾が開講！

6月18日、南公民館で寺子屋稲生塾の開講式が行われ、小学2年生から6年生まで27人が参加。児童書作家高橋和の助さんによる「こども武士道実践講座」では実践演習として、日常生活の場面で仁義礼智などの武士道の心がどのように活かされているのかを学びました。

昨年に引き続き参加した和田まといさん（6年生）とかえでさん（3年生）の姉妹は、「今年は武士道の心をもって勉強したい」と意気込みを話していました。



高橋和の助さんの質問に答える塾生たち

消防団員らが日頃の練習の成果を披露 平成23年度十和田市消防団観閲式

6月12日、官庁街通りと中央公園緑地で平成23年度十和田市消防団観閲式が開催されました。観閲式には、消防団員710人が参加。ずらりと整列した団員らが角田弘信副団長の総指揮のもと分列行進を行いました。

また、中央公園緑地では消防ポンプ操法と玉落とし競技が行われ、団員らが日頃の練習の成果を披露。実際に放水が行われ、迫力ある競技に観客からは歓声が上がっていました。



9mのポールに吊るされた玉を放水で落とす速さを競う玉落とし競技。ホースを握る手に力が入る

災害に強い森を作ろう！ どんぐりの森植樹祭

6月4日、市内奥瀬字仙ノ沢にある「どんぐりの森」でブナの幼木の植樹祭が開催されました。この植樹祭は、NPO法人どんぐりの森・山楽校（川村清市塾長）とどんぐりの森植樹祭推進会議（杉本佳築子会長）が災害に強い森づくりの一環として開催したものです。

参加者は市民や三沢市の米軍関係者ら約150人で、整地した約2haの土地にメッセージを書いたプレートとともにブナの幼木約1,300本を植えました。



子どもたちと同じ背丈ほどのブナの幼木を植えました

色鮮やかなつり飾りを展示 十和田つり飾り愛好会が作品展

6月3日、道の駅とわだの匠工房で十和田つり飾り愛好会（松坂つや代表）の作品展が開催されました。つり飾りは、一本の紐に人形や動物、花など女の子にまつわるものが吊るされ、厄除けや安産などの意味が込められているものです。

同愛好会代表の松坂さんは「つり飾りに吊るされた人形のひとつひとつに意味が込められています。皆さんに喜んでいただけると幸いです」と話していました。



天井一面に吊るされたつり飾りに見とれる来場者のかた

市民もパッチワークで参加！8月28日(日)まで開催 マイケル・リン「ミングリングーふれあいー展」

5月28日、現代美術館などでマイケル・リンさんの企画展「ミングリングーふれあいー展」が開催されました。リンさんは、現代美術館のカフェ・スペースの床をデザインしたアーティストで、今回の企画展は「ふれあい」をテーマに開催。作品は、市民と共同で作成したパッチワークなどを中心に約30点を展示しています。企画展は、現代美術館やふれあいホールなどで8月28日(日)まで開催されます。



壁一面にデザインされた花柄模様

地域農業を次の世代へ伝える 十和田西高1年生が田植え体験

5月31日、県立十和田西高校（堀米潤校長）の1年生68人が田植えを体験しました。この田植えは体験活動を通して世代間交流を深め、子どもたちに地域農業を伝えようと奥入瀬の米プロジェクト実行委員会（中野正三会長）が開催したものです。

田植えは同校近くの水田で行われ、十和田自然栽培研究所の戸来陽子さんと沢田地区の老人クラブのかたの指導のもと行われました。また、十和田みなみ幼稚園の園児も応援に駆け付け、生徒らは声援を受けながら一生懸命苗を植えていました。



園児も苗を投げてお手伝いをしました

Pick up 市民がボランティアとして参加 野田村で復興支援活動

5月21日と28日、市民ボランティアが岩手県九戸郡野田村で支援活動を行いました。

この活動は、市が被災地支援のためボランティアを募り行われたもので、両日合わせて市民約90人が参加しました。

21日の出発式では小山田市長が「皆さんの力が一日も早い復興につながります。被災地のかたにとって大変心強いことだと思います」と激励の言葉を述べました。

現地では、仮設トイレの清掃やがれきの撤去作業などを行い、ボランティアのかたは汗を流しながら、被災地の復興のために一生懸命作業を行いました。



がれきの撤去作業を行うボランティアのかたがた

農産加工品や郷土料理の伝承が評価！ 野崎さち子さん（ひまわり工房） が農村振興局長賞を受賞！



農林水産省などが主催した第20回食アメニューコンテストで野崎さち子さんが農村振興局長賞を受賞し、6月9日、自宅のひまわり工房で表彰式が行われました。

この賞は、道の駅とわだでの自家生産物を生かしたおにぎりなど米を主とした農産加工品の販売や、郷土料理の技術習得・伝承が評価されたもので、野崎さんは「地域の活性化のためにも技術を伝えていきたい」と受賞の喜びを話していました。